

## 復元することは過去と未来をつなぐこと（第6学年）

～東京駅丸の内駅舎・平城宮第一次大極殿の復元から考える～

奈良市立飛鳥小学校 大西 浩明

### 1. ESD を生かした授業づくり

#### (1) 単元名・学校種と学年

「復元することは過去と未来をつなぐこと」

～東京駅丸の内駅舎・平城宮第一次大極殿の復元から考える～ 小学校 第6学年

#### (2) 単元の概要

その場所にもとあった建物などを復元（復原）しようとする動きが、どんな時代でも世界中にある。何十年、何百年と守られ、受け継がれてきた「古いもの」が遺産としての価値を有することは、理解しやすいし、学習対象としても有効である。しかし、すでに存在しなくなったものを、膨大な予算と労力をかけて復元（復原）した「新しいもの」にも、復元（復原）することの意義を考えることで学習の対象として価値があるのではないかと考えた。

復元とは、すでに失われた歴史的な建物を、基本的にすべて新材を用いて再建することであり、復原とは、創建時から現在までに改造された部分を旧状に戻すことと定義されるが、旧の姿を再現しようとする点では、本質的には同じ行為であると言える。

本単元で取り上げる東京駅丸の内駅舎は、1914年に鉄骨煉瓦造でドーム形状の地上3階建てで造られた。関東大震災にも耐えたが、東京大空襲によりドーム部分などを焼失し、1947年に鉄骨煉瓦造はそのままに、寄棟形状に姿を変え、地上2階（一部3階）建てで約60年間を過ごしてきた。それを2012年、JR東日本が約500億円を投じて、免震工法を施した上でほぼ開業当初の姿に復原した。施工にあたった鹿島は、「100年前の創建時の姿を復原することで、さらにその姿を100年先につなげることをめざす」と、ホームページに記している。この「つなげる」というところを、復元することの意義を考えるキーワードとしたい。

もう一つ取り上げる平城宮第一次大極殿は、文化庁が中心となって、約180億円をかけ2010年に復元された。平城宮跡は、遷都後、明治期になって棚田嘉十郎が発見、保存運動をするまでは一面水田となってその存在すら明らかではなかったものを国が買い取り、現在もなお発掘調査が行われている。1998年には朱雀門が復元されているが、地中に未だ遺跡があるにも関わらず、もとの建物を復元することに賛否両論がある中で、平城宮跡に復元することの意義はどこにあるのかを考えられる題材である。

学習を展開するにあたっては、「なぜ、昔あった建物を復元するのか？」という学習問題を設定し、東京駅丸の内駅舎と平城宮第一次大極殿を例にして、その歴史や復元の概要を調べる。そして、復元されていったい何が変わったのかということについて、調べたり考えたりする中で、次の2つのことに気付かせたい。

#### ①復元することは、技術をつなぐこと

東京駅丸の内駅舎が建設された当時、杭打ちや鉄骨建てなどの作業以外はほとんど職人による手作業で行われていた。その優れた仕様や工法を努めて採用することで、当時の技術に学び、それを未来へ継承していこうとするところに復元の意義はある。一方、平城宮第一次大極殿に

においては、研究機関による発掘調査などから分かってきた 1300 年前の技術を復元することによって実証しようとするところにも意義がある。さらに、いずれも復元するにあたっては、現代の免震対策などの安全性や利便性を追求したものでなければならない。当時の技術と現代の技術をともに未来へとつなげるという側面もある。

②復元することは、思いをつなぐこと

東京駅は、首都東京の中央駅としてふさわしい「日本の顔」となるべく駅舎にしたいという当時の国家指導者の思いがあっただろうし、それは平城宮大極殿においても同様であろう。そんな思いを、復元することで往時の姿を再現し、「姿をつなぐことで人の思いをつなぐ」意義がある。

以上のように、復元するということは、過去と未来を現代においてつなぐことにより、様々な意義があることを気付かせたい。また、復元することは観光資源として大きな価値があることを実感させ、さらに、何でも昔あったものを復元することが本当によいことなのかを考えさせたいと思う。

(3) ESD の視点の明確化

【持続可能な社会づくりの構成概念】

構成概念Ⅱ 相互性・・・復元するという事は、技術や人の思いの継承であり、過去と未来をつなぐという意義があること。

構成概念Ⅴ 連携性・・・復元されるにあたっては、往時の姿や工法などを再現するだけでなく、現代に必要なものが加味されていること。

2. ESD の視点を生かした授業の実践

(1) 単元の目標（重視する能力・態度）

《未来》復元することで将来的にどのような道筋を描くことができるのかを考えることができる。 【関心・意欲・態度】

《多面》復元することの意義について、様々な側面から考えることができる。

【思考・判断・表現】

《伝達》復元することの意義について、様々な側面から調べ、分かったことをもとに分かりやすく伝えることができる。 【思考・判断・表現】【技能】

《未来》復元することは、過去と未来をつなぐためにも大きな意義があることを理解することができる。 【知識・理解】

(2) 評価規準

未来 関心・意欲・態度	多面・伝達 思考・判断・表現	多面 技能	未来 知識・理解
①復元することで、将来その地域がどのように変化し、よりよく変えていけるかを、自分との関わりから考えている。	①復元することの意義について、様々な側面から考えている。 ②復元することの意義について、自分の	①復元することの意義について、コンピュータなどを効果的に使って、様々な側面から調べている。	①復元することは、過去と未来をつなぐためにも大きな意義があることを理解している。

	言葉で効果的に表現している。		
--	----------------	--	--

(3) 単元の計画 (総時数 5 時間)

時	主な学習活動と内容	◇教師の支援 ◆主な評価
1 2 3	<p>1. 東京駅丸の内駅舎と平城宮第一次大極殿の復元について知り、学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><b>なぜ、昔あった建物をわざわざ復元するのだろうか？</b></p> </div> <p>2. 2つのグループに分かれて、それぞれの歴史や復元の概要などを調べる。</p>	<p>◇ 復元工事にかかった時間と金額を提示し、問題意識をもたせる。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>東京駅丸の内駅舎</p> <p><b>【歴史】</b></p> <p>1914年 中央停車場として開業</p>  <p>1923年 関東大震災にも耐える</p> <p>1945年 空襲によりドーム部分など焼失</p> <p>その後、形を変えたままで2007年まで営業</p>  <p>2012年 復元完成</p> <p><b>【復元の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドーム形状など、建設当初の外観を復活させる。</li> <li>創建時の仕様、工法をできる限り取り入れて工事をする。</li> </ul>  <p>ドーム内部</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>平城宮第一次大極殿</p> <p><b>【歴史】</b></p> <p>710年 平城遷都 大極殿は未完成か</p> <p>715年 大極殿にて元日朝賀を行う</p> <p>724年 大極殿で聖武天皇が即位</p> <p>740年 恭仁京に遷都 大極殿を解体、移築</p> <p>1970年 発掘調査 (1971年、1998年)</p> <p>2001年 復元工事着工</p> <p>2010年 復元工事完成</p> <p><b>【復元の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設計図などの構造に関わる資料はないため、これまでの発掘調査などから分かってきたことをもとに設計する。</li> <li>基壇は遺構を盛土で保護した上に杭を打たず築かれている。内部に免震装置を導入する。</li> <li>部材の加工、仕上げには古代の道具を用いる。(ヤリガンナ、チョウナなど)</li> <li>古代の例にならい、荷重の集中する箇所にはケヤキを使う。</li> <li>外観はもちろん、構造にも古代建築の特性を活かし、そこに免震装置を導入する。</li> </ul> </div> </div>	<p>◆復元することの意義について、コンピュータなどを効果的に使って、様々な側面から調べている。《多面》</p>

	<p>・免震工法で建設するなど、安全性を追求する。</p> <p>総工費 約 500 億円 着工から約 5 年で完成</p>  <p>空襲で炭化した創建当時の木レンガ</p>	<p>総工費 約 180 億円 着工から約 9 年で完成</p>
4	<p>1. 調べて分かったことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京駅丸の内駅舎 当時の技術に、現代の技術を合わせている。 当時を知っている人がたくさんいるはず。 首都にふさわしい立派な駅にしたかった。</li> <li>・平城宮第一次大極殿 当時の技術に、現代の技術を合わせている。 だれも見た人も知っている人もいない。 日本のすごさを天皇は見せたかったのかも。</li> </ul> <p>2. 学習問題について自分の考えをつくる。</p>	<p>◆復元することの意義について、様々な側面から考えている。《多面》</p> <p>◇共通点や相違点を確認させ、学習問題に迫るための視点を明確にする。</p> <p>◆復元することは、過去と未来をつなぐためにも大きな意義があることを理解している。《未来》</p> <p>◇「技術をつなぐ」、「思いをつなぐ」につながるよう、『つなぐ』『つなげる』を使って自分の考えをまとめさせる。</p>
5	<p>1. 学習問題について考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設当初の職人の技術のすばらしさをつなぐ</li> <li>・当時の国家指導者などそれをつくろうとした人たちの思いをつなぐ</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「復元することは過去と未来をつなぐ」</p> <p>2. 復元後、地域がどのように変わったかを知り、さらに考えを深める。</p> <p>3. 何でも復元することが本当によいことなのか話し合う。</p>	<p>◇一言で自分ならどうまとめるか考えさせる。</p> <p>◆復元することの意義について、自分の言葉で効果的に表現している。《伝達》</p> <p>◇復元後には、地域がメディアを効果的に利用して大きな観光資源となっていること、人々の関心が高まっていることに気付かせる。</p> <p>◇復元されたいいくつかの事例から、単なる観光資源としての復元に意味があるのか考えさせる。</p> <p>◆復元することで、将来その地域がどのように変化し、よりよく変えていけるかを、自分との関わりから考えている。《未来》</p>